

2008年7月2日

東芝プラントシステム株式会社

(東証一部、証券コード:1983)

エジプトでガスタービン複合発電所向け工事を4件同時に受注

当社は、豊田通商株式会社(本社:名古屋市中村区、社長:清水順三)と共同で、エジプト・アラブ共和国の中部デルタ発電公社(Middle Delta Electricity Production Company)エル・アテフ(El Atf)750MW ガスタービン複合発電所向け、及び西部デルタ発電公社(West Delta Electricity Production Company)シディ・クリール(Sidi Krir)750MW ガスタービン複合発電所向け付帯設備の供給・据付工事(機械・電気で各2件の計4件)を同時に受注し、7月1日に現地でエジプト電力エネルギー大臣立会いのもと契約を締結しました。

受注金額はエル・アテフで約70億円、シディ・クリールで約60億円、計約130億円です。 また、本工事は2008年11月に現地着工し、両発電所とも2010年8月に運転開始の予定です。

本件は、一般にBOP (Balance of Plant)案件と呼ばれ、発電所の主機であるタービン発電設備やボイラー設備に付帯する機械設備(ポンプ類、非常用発電機、配管設備など)や電気設備(直流電源設備、ケーブル設備など)の供給や据付工事を行うものです。

今回の工事における当社の主な業務は、当該発電所の付帯設備(機械設備・電気設備)の設計、エンジニアリング、機器調達、現地施工管理及び現地試験・調整業務です。

当該発電所の主機であるガスタービン発電機の建設案件は、2007年9月に、豊田通商株式会社が三菱重工業株式会社(本社:東京都港区、社長:大宮英明)と共同で受注しており、今回の受注は、当社が主機を受注した豊田通商株式会社からBOPについて参画を求められ、実現したものです。

当社はこれまで、東南アジアを中心に、火力発電所における主機(タービン発電機)単独での供給・据付工事案件やBOPの供給案件、及びEPC案件(Engineering(設計)、Procurement (調達)、Construction(施工・試運転)までを一括受注する案件)で多くの実績がありますが、今後も増大する海外の電力需要に応えるため継続して電力案件の入札に参加し、事業の拡大を目指してまいります。

以上

本件に関する問合せ先

東芝プラントシステム株式会社 業務部 広報担当 栗原/三吉 TEL: 045-500-7012 e-mail:kouhou@toshiba-tpsc.co.jp